

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401426		
法人名	有限会社 気楽		
事業所名	グループホーム ポテトの丘	ユニット名	1
所在地	長崎県雲仙市愛野町乙3501番地3		
自己評価作成日	平成27年3月日	評価結果市町村受理日	平成27年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成27年4月17日	評価確定日	平成27年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家族の思いも踏まえて、一人一人の気持ちをくみ取りながら日々の生活を共に過ごす。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>“ポテトの丘”でひと時を過ごしていると、“本物のケア”をされている事が伝わってくる。ホームで生活している方々を大切に想い、1つ1つのケアに愛情を込め、ご本人の真意を知るための寄り添いを続けている。ご利用者と職員が手を繋ぎ、心を通わせる事も日常で、意思疎通が困難な方には、そっと職員が抱きしめており、「嬉しか…」と涙を流される方もおられる。終末期には、ご本人の“息の呼吸”を感じながら、会話の中で瞬間に目線が合った時に、「今、本当の声が聞こえた」と感動される時もあるとの事。出棺の時には、ご本人が自宅で育てていた“蘭の花”を胸の上に置かせて頂いた。運営者の方々や職員が大切にしているのは“ご本人”であり、ご本人が何を考えておられるのか、何をしたいと思われているのかを常に考えと共に、悩まれている。今後も更に、ご本人の真意を理解(記録)する取り組みを続けると共に、「今できる事」を家族と一緒に叶えていきたいと考えている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を把握し意識したうえで日々のケアを実践していると思うが、忘れがちになるので継続していく必要がある。	「気持ち、穏やかに楽しく過ごしましょう」という理念を大切にしており、25年度から“今月の目標”を作り、日々実践している。理念の6つ目に「人間として誇りを持ち、自分らしい最終を迎えたい」を掲げており、26年度も全職員で協力し、医師や家族と一緒に誠心誠意の終末期ケアが行われた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との繋がりを大切にしているが、入居者の体調面で交流できていないのが現状である。	地域の方から野菜の差し入れがあり、嬉しく思っている。ゴミステーションの花壇作りや地域の集まり(食事会)に参加したり、温泉神社の夏祭りや職員が参加する地元の「くんち」見学に行かれている。ホームの隣に住んでいる方が毎日ホームに来て下さり、ご利用者や職員との会話を楽しまれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	気軽に相談に来て頂くように声掛けをしている。相談があれば行動に移している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	和やかな雰囲気の中で、活発に意見を出して頂いている。	会議では子ども達が減っている現状や高齢者向けの犯罪内容まで、様々な視点で情報交換している。参加者の介護体験を共有したり、ホーム側から認知症の説明も行われた。地域包括の方から「行方不明時の連絡網作成」の説明もあり、今後も地域支援の在り方を検討する予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて心よく相談にのって頂いている。	運営推進会議で、地域包括の方から介護保険や地域支援事業等の説明をして頂いている。宅老所音色を開設後、雲仙市との情報交換も深まり、親身にアドバイスを頂いている。管理者が申請や手続きのために支所を訪れ、入居時は広域の方に報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は防犯状、夜間のみ施錠している。取り組んでいるが、安全・生命に関わる時は、やむおえない場合もあると思う。	“身体拘束は原則全面廃止”という方針のもと、ご利用者個々の行動や心理を把握し、職員同士が連携しながら、“身体拘束の無いケア”を続けている。お気持ちが混乱されている時は職員が寄り添い、その方の世界に入って喜怒哀楽を共有すると共に、要望に応じて自宅にお連れしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等は参加している。職員同士の言葉使いのなかで意識なく使っている時がある為、言葉の虐待にならないように指導していく必要がある。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度利用者1人。手続き中1人。成年後見制度を知らない職員もいるので勉強する機会をもつ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は説明し理解・納得して頂いている。利用者の改善により話し合い場をもち納得してもらい解約の運びになった方もおられる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時、意見や要望を聞くようにしており、出来るだけそうようにしている。中にはあまり立ち入りすぎないようにしないといけない方もおられる。	新しく入居された方もおられ、ご本人と家族の不安な思いに寄り添い、要望の把握に努めてこられた。日々の暮らしぶりを報告し、今後のケア内容等の情報交換をしている。お弁当を持って面会に来て下さる方もおられ、写真いっぱい通信を毎月郵送し、家族会も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や、その他でも意見や要望を機会をもうけており運営に反映させている。	運営者の方々への信頼が厚く、職員が意見やアイデアを伝えやすい環境が作られている。行事計画も職員が行い、運営者が企画内容のフォローをしているが、「ダメ」と言われる事はなく、職員のアイデアが活かされている。家庭環境に応じた勤務シフトが作られ、働きやすい職場作りを続けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭の事情に応じ希望を受け入れ働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を掲示しており参加しやすい環境をつくっている。個々にあった研修に参加させている。シフトや家庭環境面で参加しにくい場合もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	支部の研修には多くの職員が参加するようにしており意見交換の場にもなっているようである。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前はミーティングで情報を得、入居後は気づいた事等、全員が共有できるように紙面で掲示し理解することで早く安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が要望を言えない気持ちを察しながら安心して頂けるような会話を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報をもとにミーティングで話し合い、本人や家族が必要としていることは何か検討し支援するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日のケアの中で家族のような気持ちで接し、個人を尊重するように心がけている。意思疎通の、できない方は表情等を見ながら接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には日頃の状態を伝えることで本人の現状を知って頂くようにしている。家族を巻き込んだ支援が負担のかからない程度におこなっていきけるように今後も支援していきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出できる方は希望に合わせて支援している。入居したばかりで自宅に戻れない方は、あまり行き過ぎてもよくない場合もあり、一日でも早く慣れて頂くように努めている。	知人や同僚等も面会に来られている。ご利用者と職員が同郷の方もおられ、馴染みの地名や馴染みの同郷の方の名前を話題に盛り込んでいる。家族とお墓参りに行かれた方もおられたが、その後は「ここ(ホーム)でよか」と、ホームで手を合わせる方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席をその時の状態に合わせ、職員が間に入り話やすいような雰囲気作りをしている。状態を見ながら利用者同士が支え合えるような空間をつくり共同生活がより良い関係に保てるように努めていく必要がある。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何年たっても訪問してくださる方もおられるが、ほとんどの方は疎遠になっている。相談があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気持ち良く暮らして頂けるように表情・会話・動作等、観察し職員間で共有している。意思疎通が難しい方は家族の希望が優先する場合もある。	団欒時や入浴時などに意向を確認している。意思疎通が難しい方にも優しく声かけし、表情や仕草等から思いを汲み取るようにしている。小さな表情の変化を読み取り、職員同士の情報共有を続けている。DBDスケールや時系列シートも活用し、変化の記録に努めている。	ご本人の「尊厳ある暮らし」を常に考えている。日々の生活や医療を含めた意思決定が難しくなっている方もおられる中、今後も「ご本人にとっての最適な生活(医療や看取り支援の要望)」を把握し、記録に残していく予定である。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、馴染みの物を持って来る方がおられない。生活歴・紹介先からの情報・家族からの聞き取り・会話の中から聞き出す等で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	動ける方は自由に行き来する中でも見守りはおこなっている。重度の方は体調に合わせて時間を見て横になってもらっている。最近では入居者の入れ替わりもあり職員の連携が密になっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いをくみ取り又家族の意向を踏まえ、職員の気づきを意見に反映しその人にあつた介護計画を作成している。	職員全員が介護計画作成に携わっている。アセスメント等も職員が交代で担当し、ご本人の要望を丁寧に確認し、介護計画に反映している。自立支援の視点も大切に、洗濯物干しや掃除機かけ等を自分で行う方もおられ、大切なバッグ等を傍に置く事も計画に盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の状態の変化を記録に記入し目を通すと共に申し送り等で伝え共有しながら介護の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変わる状況の中、職員間で話し合い本人の気持ちもくみ取り臨機応変に対応し、その場にあつた支援をしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の要望があり地域資源の活用を心みるが、なかなか続かないのが現状である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医が2週間に1度の往診。他の医療機関の方は家族付き添いで病院受診をして頂いていたが、最近では身寄りのない方が数名おられ受診も大変なときがある。	看護師が勤務しており、職員の安心になっている。往診や訪問看護も受けており、24時間体制で医療連携ができています。日々の観察を丁寧に行い、早期対応に繋げており、行動障害等は専門医に相談し、薬を減らす調整もして下さる。医師の方々も日々の取り組みを評価して下さっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護師が相談しやすい関係であり、状態変化がある場合は休日でも看護師に報告・相談し、気がかりな時は来てくれている。又週1回の訪問看護師との連携もとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は訪問し状態把握に努めている。連携室と連絡を取りながら早期退院が出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階では実感がなく、あまり理解されていないようである。機会がある時は話を取り入れ信頼関係を築いていけるようにしていく。	「最期はホームで…」と願う方が多く、26年度は4名の看取りケアが行われた。終末期の意向が家族間で異なる事もあり、話し合いを密に行い、記録に残している。主治医にも適宜報告し、指示を頂いている。終末期は代表や管理者等がホームに待機し、看護師や主治医も常に駆け付ける体制があり、職員の安心になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練や救急法の訓練をおこなっているが、いざという時身についているか解らないので今後も実施していく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難訓練はしているが、いざという時素早い対応ができるか疑問であるので、訓練を重ねていくことで個々の意識を高めていく必要がある。	スプリンクラーを設置している。自主避難訓練と共に、愛野分署との訓練も行われ、27年3月29日は念願の地域(部落)との合同訓練を行う事ができた。消防署(2名)、地区の消防団(14名)、部落の方(20名)、職員(8名)、利用者(8名)と一緒に、地震・津波想定避難訓練や消火栓の説明(放水)、消火器の使い方の確認が行われた。災害に備えて食料と水を準備しており、今後は自然災害の防災計画を作成予定である。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声掛けをしているつもりだが、時には親しさをもって冗談を言ったり相手が和むこえかけを気にかけている。表情や状況を見ながら、そっと見守る場合もある。	代表の方々の姿勢を職員は常に学ばれており、ご利用者を大切に思う姿勢が日々見られている。今まで生きてこられた人生に向き合い、「人生の先輩」と言う思いで接している。ご本人のペースを尊重すると共に、ご本人の真意を把握するように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話等から言葉を選んで自己決定がしやすいように、それとなく返事を返してもらえようように心がけている。本人の希望に沿いたいのが家族との兼ね合いを考える時がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の予定を伝え本人の希望に添えないようであれば変更しているが、本人の意向が確認できない方はスタッフの都合で支援している場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは恥ずかしくならないようなスタイルをして頂いているが、お洒落までは話しをしても興味をもたれない。外出時は身だしなみに気をつけるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	時には何を食べたいか聞いている。食事は一緒に食べるようにしており和やかな雰囲気作りを心がけている。中には下膳やテーブル拭きをしてくださる。	ご利用者から「皿うどんが食べたい」等の要望があり、調理担当の方や職員が手作りしている。家族や地域の方からジャガイモや玉ねぎ等の差し入れも多く、ドレッシングやゼリー等も手作りしている。ご利用者が食材に応じた料理のアドバイスをして下さり、ツワ剥きや干し柿作り、下膳もして下さっている。	今後も更に、ご利用者に頼る姿勢を大切にしていきたいと考えている。日常生活の中で“できる事”“できそうな事”を丁寧に把握し、役割作りの機会を増やすと共に、介護計画に盛り込んでいく予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に応じた食事量・水分量で、食事が十分摂取できるように形態の工夫・栄養バランスを考えながら提供している。栄養の必要な方はエンシュアゼリー等で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2名の方は自分で口腔ケアをしており、それぞれに応じた口腔ケアをおこなっているが嫌がる人もおり十分ではない。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のパターンを職員間で共有しオムツを減らせるように心がけている。自立できる状態の方にはトイレでの排泄を促している。	布パンツ(+パット)を着用し、排泄が自立している方もおられる。個別の誘導で、リハビリパンツから布パンツに変更できた方もおられ、家族も喜んで下さった。前面バーも活用して安全に配慮すると共に、羞恥心に配慮し、トイレの外で様子を伺う時もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックは何時も気がけており、飲食物等の工夫をしている。便秘になりやすい方は主治医と相談し薬で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日にちや時間帯は、だいたい決めているが希望に合わせて決まり事にとらわれなくタイミングを見て個々に沿った入浴して頂いている。	気持ち良く入浴できるように声かけしているが、「今日は入らない」と言われる時は無理強いないようにしている。2人介助で湯船に浸かれる方もおられ、安全に配慮した支援をしている。職員と一緒に「ありのまま♪」を唄われたり、柚子湯や菖蒲湯も楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じ休息して頂いている。夜間どうしても眠れない方は話をしたり、主治医の指示で薬を服用して安眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬一覧表を見ながら確認し服用して頂いているが全員が目的・副作用・用法・容量までは理解しているか解らないので把握していく必要がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リハビリを兼ねて、その人に合った手仕事等をしてもらう事で楽しみや役割を持ちながら過ごして頂いている。個々に合った対応をしたいが、なかなか出来ない面もあるので回数は少なくとも一人一人に対応していきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には外出は出来ないが、天気の良い時は庭先での日光浴や食事をしている。希望があればお連れしている。対応したことで、かえって混乱を増すこともあるので難しい面もある。	重度化している方もおられ、家族との思い出作りを大切にしており、鍋島公園に家族と出かける機会も作られた。季節の花見を楽しまれたり、誕生日に回転寿司に出かけた方もおられ、楽しいひと時を過ごされた。個別の希望に応じて、買物やマッサージにお連れする時もあり、今後も外食やドライブを増やしていく予定である。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名の方がお金を所持しており、買い物の希望があれば支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望された時は家族と話してもらったり頻繁な時は職員で対応している。年賀状を出された方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感をだし飾り物や花等で心地よく過ごせるよう工夫している。室温の快適温は個人差があり心配りが必要である。	ホーム内は職員のアイデアが溢れる作品が飾られている。家族のご指導で、墨彩画(アスパラやイチゴ等)の作品も廊下に貼っており、廊下の往復時に眺めている。木の温もりを感じる家具が置かれ、リビングからは空や海、周囲の木々を見る事ができる。リビング内に台所があり、家庭的な環境の中で過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	意志のある方は思い々に居室やリビングで過ごされる。自由に座れるようにソファや椅子等を置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みが少ないが部屋には、家族が持ってきた物や本人が大切にしている物を置き少しでも居心地のよい空間と思えるようにしている。	家族も一緒に居室作りをして下さる方も多く、お孫さんが描かれた絵や、家族や愛犬の写真等を飾っている。ラジカセやカセットを持参し、好きな音楽を流している方もおられ、職員からの誕生日プレゼントである”ご本人の似顔絵”等も貼っている。日々の掃除を行い、換気も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	月のミーティングで個々のレベルの確認をし、自分で出来ることは自分でして頂くように心がけている。転倒のリスクが大きい方は出来ることを余り奪ってしまわないようにと思うが心配な時もある。		